

主に留まることについて

(ヨハネ15・1〜10)

一、わたしはまことのぶどうの木

聖書は不思議な書物でありまして、何回読んでも発見するものがあります。1節に「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫です。」とありますが、なぜ主は、「わたしはまことのぶどうの木」と語り、「わたしはぶどうの木」とは語られなかったのだろうかと思いましたが、現に5節では、「わたしはぶどうの木」と語られ、「まことの」ということばが入っていません。

1節の「まこと」ということばですが、ヨハネの福音書においては、例えば1章9節の「すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。」に現れます。あるいは4章23節の「しかし、まことの礼拝者たちが、御霊と真理によって父を礼拝する時が来ます。」にも現れます。「まこと」ということばには、「真正正銘の」という意味合いがあります。ゆえに、主イエスの「わたしはまことのぶどうの木です」からは、「様々なぶどうの木がある中で、わたしこそ真正正銘のぶどうの木である」とおっしゃった響きを感じ取ることができます。

ところで、聖書がメシアなる御方を指して「ぶどうの木」と語るのは、旧約

には出てこない話です。旧約で、ぶどうの木がたとえとして語られる時は、いつもイスラエルを指していました。しかもうまく育たず、酸っぱいぶどうが実ってしまったぶどうの木として例えられています。代表例として、イザヤ書5章のことばがあります。ところがヨハネの福音書15章では、主イエス・キリスト御自身が、良い実を結ばせる、まことのぶどうの木であると、たとえられています。そうなのです。私共は、主イエス・キリストに「枝」として「留まって」いるなり、ひとりの人間としても、信仰者としても、実を結ぶことができるのである。そうではなくて、主イエス・キリストから離れてしまったら、実を結ぶことはできないわけです。

二、わたしにとどまりなさい

4節をご覧ください。「わたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります。枝がぶどうの木にとどまっていなければ、自分では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたもわたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。」とあります。主イエスが語られた、「へわたしにとどまりなさい」という訳語ですが、新改訳聖書とフランシスコ会訳が「とどまりなさい」という訳語を用いています。一方で、口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳は、「わたし(私)につ

ながっていないなさい」です。元のことばは「留まる」という意味ですが、「つながる」の、両方の訳語で受け取りますと、いろいろ教えられると思います。

主イエスがおっしゃった「へわたしにとどまりなさい。わたしもあなたがたの中にとどまります」ということばは、同じくヨハネの福音書14章20節に重なると思います。こうあります。「その日には、わたしが父のうちに、あなたがたがわたしのうちに、そしてわたしがあなたがたのうちにいることが、あなたがたに分かります。」と。

そういうわけで皆様。どうぞ、主イエスの内に留まってください。そして、主イエスが聖霊によって、皆様方の内に留まっておられることを経験されてください。そのようになられるよう、お祈りをいたします。

三、わたしにつながっていないなさい

口語訳、新共同訳、聖書協会共同訳における訳語であります、「わたしにつながっていないなさい」からも教えられてまいると思います。枝としてたとえられている私たちは、主イエスにつながっている限りは祝福され、実を結びます。

主イエスのうちに留まること、あるいは主イエスにつながり続けることは、神から叱咤激励され続ける、厳しい道なのでしょうか。私は、信仰生活は基本

的には喜びであり、平安であり、神の祝福に与ることであると受け止めています。もちろん信仰を持つことによる生きづらさ、風当たりの強さがあります。ですがそういう場合は、私たちが受けた苦難を上回る慰めが与えられます。そういうわけで、神は私たちを絶え間なく訓練し、悪いところがあつたら刈り込みをなさる御方であると受け止めるなら、違つと思いません。

「わたしにつながっていないなさい」から教えられることは、文字通り主イエスにつながっていることです。主イエスにつながるとは、教会につながっていることです。教会員になることです。教会員でない方も、もちろん主イエスにつながっています。ですが、教会員になられずと、その人は教会に組み込まれて、教会の一部となり、互いに責任を持つこととなります。たとえ一時的に教会生活からおのいてしまつても、教会員である限り、教会はそれなりに受け止めますし、フォローもいたします。そういうわけで、教会員になりますと、その人は教会を支えて行く責任ができますが、教会も必死にその人を支える責任を持つこととなりますので、良いことであると思えます。

どうぞ、皆様。主イエス・キリストにつながり、また目に見える教会につながってください。すなわち、教会に組み込まれてください。